

認識論教育に関する一考察

— 5つの理論と2つのシートを中心として —

加 藤 雄 士

要 旨

本稿は、人材開発論の講義における認識論の効果的な教育方法について考察している。まず5つの認識論の知識を図示することで比較した。これらの知識を統合して作成した「認識のプロセスの観察シート」と、クリスティーナ・ホール博士の「一般化のプロセスを方向づける」質問を活用したシートを学生に記入させることで、認識論の知識が理解しやすくなるだけでなく、自分の認識プロセスの見える化ができるようになる。また、一連の質問が人の認識の方向を変えることも明らかになる。5つの理論と2つのシートは効果的な認識論教育だけでなく、人材開発手法を考察する際にも有用であるとの示唆が得られた。

I は じ め に

本稿では、人材開発論の講義における認識論の効果的な教育方法について考察する。筆者は、これまでに3本の原稿で認識論を学際的にレビューしてきた¹⁾。本稿ではそのうちクリスティーナ・ホール、ジョン・グリーンダー、薄井坦子、地橋秀雄、コージブスキーの5者の認識論（のモデル）を図示・比較した。これにより、それらの理論の諸概念を比較することができ、包括的に認識論が理解できる。続いて、これらのモデルを1枚のシートに取り入れた「認識のプロセスの観察シート」を紹介する。受講生がこのシートに記入することで、認識のプロセスを経験的に理解できるようになり、認識論の効果的な教育が可能になる。さらに、「一般化のプロセスを方向づける」質問のシートを紹介し、2人の受講生の記入したシートを考察する。受講生は質問への回答を記入していくことで、日常とは異なる認識のプロセスを体験できる。その結果、クリスティーナ・ホールの一連の質問が認識の方向に影響を与えることが見える化(可視化)できる。これら2つのシートを活用することで、認識論の効果的な教育が可能になり、人材開発手法を考察する際にも有用な知見が得られるという示唆が得られる。なお、今回取り上げる事例は、筆者が2016年に担当した人材開発論の講義²⁾における取り組みである。

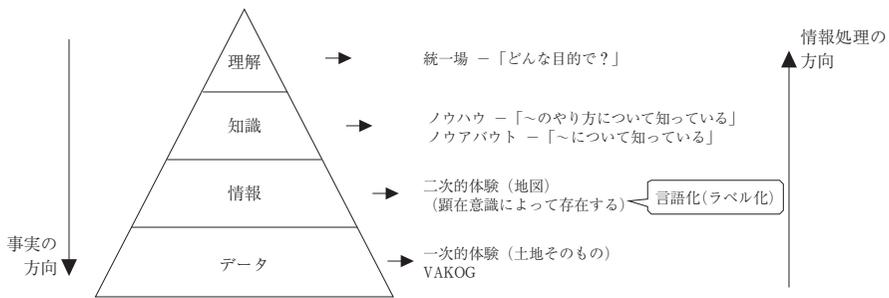
II 5つの認識論のモデル

本章では、次章以降の考察のベースとなる5つの認識論のモデルを整理する。

1 クリスティーナ・ホールのリビング・システム（認識論のモデル）

NLPの開発に関わったクリスティーナ・ホール（2008）は、認識のプロセスを、データ、情報、知識、理解という4つの概念を使い以下のようなモデルで説明する³⁾。

図表1 クリスティーナ・ホールのリビング・システムのモデル



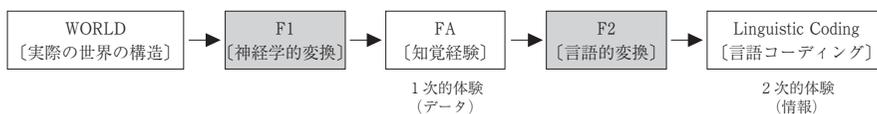
図表2 クリスティーナ・ホールのリビング・システム（認識論のモデル）の諸概念

理解	アウトカム達成に向けて行動する「理由」のこと。 「どんな目的で？」に該当し、場を統合する。 より大きな文脈の中で、より深いレベルの目的とつながる。
知識	単なる情報を組織化し、 アウトカムを達成するための行動へと翻訳していく段階のこと。 「~について知っている」というノウハウのこと。
情報	感覚的なデータにラベリングすることによって意味を与える（言語化される）。 二次的体験（セカンダリー・エクスペリエンス）と呼ぶ。
データ	感覚的なデータ、見たり、聞いたり、感じたり、臭いを感じたり、 味わったりという一次的なデータのこと。 一次的体験（プライマリー・エクスペリエンス）と呼ぶ。

2 ジョン・グリーンダーの認識論のモデル

NLPの共同開発者であるジョン・グリーンダー（2001）は、F1 (Filter1), FA (First Access), F2 (Filter2) という概念を使って認識論を説明する⁴⁾（図表3参照）。その図表にクリスティーナ・ホールのモデルの「データ」、「情報」という概念を筆者が書き加えた。

図表3 ジョン・グリーンダーの認識論のモデル



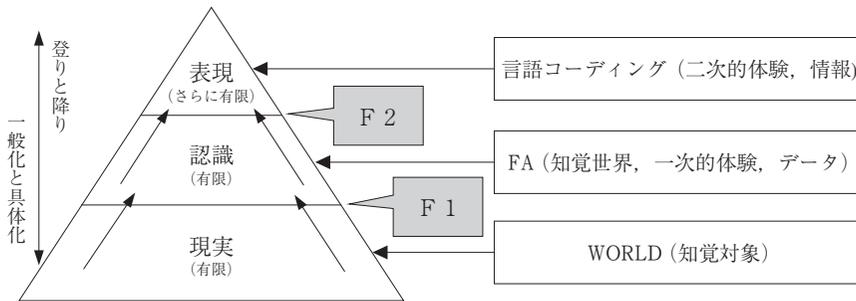
図表4 ジョン・グリンダーの認識論の諸概念

言語コーディング	二次的体験のこと。
F2	FA から続く言語マッピングとその効果（二次的体験）に焦点を当てた一連の変形のこと。F2 とは、言語マッピングと呼ぶ地点から続くすべての変形のこと。FA と呼ぶ表象とそれらに対する言語コーディングとの間にも対応するマッピングは存在しない。
FA	一連の神経学的変形の産物。感覚器官と外部世界の実際の刺激が衝突しそれぞれの皮質への投影で終わる一連の神経学的変換の産物。知覚経験（FA）と実際の世界の構造とは一致しない。一次的体験のこと。
F1	私たち人間が最初に（その世界に）アクセスする地点（一次的体験）までの入力データの流れを処理する神経学的な一連の変形のこと。刺激と感覚器官（受容体）との接触から、最初に経験にアクセスするポイントまでの間で起きる（大脳皮質への投影で終わる）すべてのマッピングのこと。
WORLD	知覚対象となるもの。

3 薄井担子の認識論のモデル

看護学の薄井担子（1996）は、認識論のモデルを、「現象－認識－表現」の構造と捉えている（図表5中、筆者は「現象」を「現実」と置き換えている）。その薄井のモデルにグリンダーのF1、FA、F2の概念をあてはめて階層化したのが次の図表5である⁵⁾。これにより、クリスティーナ・ホール、ジョン・グリンダー、薄井担子のモデルの概念が比較ができる。

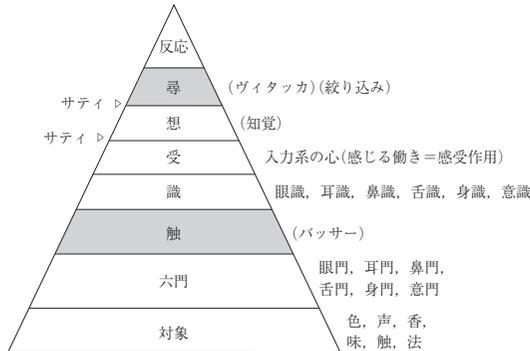
図表5 薄井のモデルと F1, FA, F2



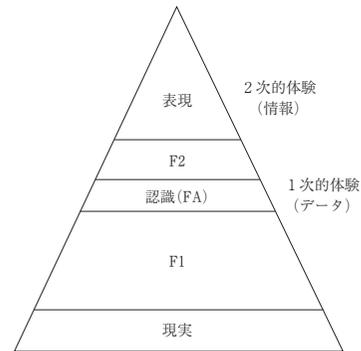
4 地橋秀雄の認識論のモデル

地橋秀雄（2008）は、「認知とは、対象が知覚され、心に認識されることをいい、『対象（情報）』と『六門（感覚受容器）』と『識』の3要素が矢印でつながる瞬間に、意識が生まれ、認知の最初のステージが始まる⁶⁾という。そして、人の認識について以下のようなモデル（図表6、8）で説明している⁷⁾。その図表6の横に図表5を修正した図表7を並べて掲載した。

図表6 地橋の認識論



図表7 薄井, グリッター, クリスのモデル



図表8 地橋の認識論のモデルの諸概念

「反応」	反応系 (出力系) の心のこと。以下の3層構造となっている。 ①後天的な学習全般で作成されたプログラム (人生観・世界観・価値観・ものの見方) ②刷り込みのプログラム ③DNA情報による生命の根源的なプログラム
「尋」 (ヴィタッカ)	「想」が機能し、情報の中身が特定された瞬間、もっと詳しく情報を知ろうとして、心はどこか一点にフォーカスされていく。その働きのこと。 「尋」が何に向けられていくかによって、次の瞬間に起動する「反応の心」の方向が定まる。 例えば、「何の匂いだろう」→「魚を焼いているのか」→「サンマだろうか、サバだろうか」と、自分の意思で「尋」を振り分けながら分け入っていく。「尋」を働かせるのは、興味や関心、コンプレックス、その時々々の欲望や怒り、執着など自分の心の背景となっているすべて。
「想」	知覚のこと。 例えば、「匂った」(「鼻識」)→「受」→「[コーヒード]と思った」(「想」)の流れとなる。
「受」	感じる働き (感受作用) のこと。 「識」が生じると同時にこの感じる働きがセットでもなう。 苦受、楽受、不苦不楽受の3種類がある。
「識」	眼識(げんしき)(見た)、耳識(にしき)(聞いた)、鼻識(びしき)(匂った)、舌識(ぜつしき)(味がする)、身識(しんしき)(感じる)、意識(いしき)(考えた、妄想した、イメージした)の6つのこと。
「触」 (バツサー)	乱入してくる情報を6つの「識」のどれかに接触させる役目のこと。 個人差があり、当人の興味や関心、コンプレックスなど諸々の理由から何かを選び、何かを捨てる取捨選択を行っている。 選ばれた情報だけが、「識」にぶつかり、恐るべきスピードで意識が生滅している。
「六門」	感覚受容器のこと。 眼門(げんもん)、耳門(にもん)、鼻門(びもん)、舌門(ぜつもん)、身門(しんもん)、意門(いもん)の6つを言う。
「対象」	知覚される外物の事物や脳内イメージや思念のこと。 色(しき)、声(しょう)、香(こう)、味(み)、触(そく)、法(ほう)の6つで表現される。

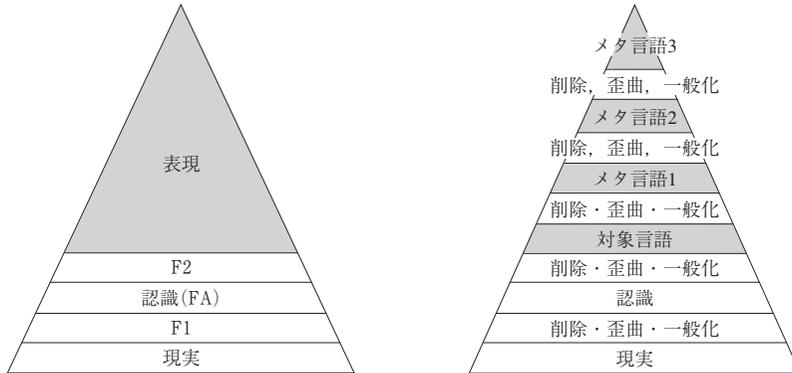
これで4つの認識論を比較できる。なお、地橋のモデルにおける「触」と「六門」を「F1」に位置づけ (ただし、これらは全く性質の異なる概念である)、「識」を「認識 (FA)」に、「受」を「F2」に位置づけた (ただし、受とF2とは全く性質の異なる概念である)。

5 コージブスキーの一般意味論

コージブスキーの一般意味論は、事物 (現実) と言語の違いを強調した。また、言語は事物を表すだけでなく、言葉自体についても語るができるとし、事物を指示する言語を「対象言語」と呼ぶ。また、言語を言い換えたものを「メタ言語」といい、この言い換

えは無限に続くとした。このコージブスキーの理論を図表7と比較すると、以下(図表9)のようになる。今回紹介したコージブスキーの理論は薄井のモデルの「表現」にフォーカスをあてていることがわかる。

図表9 図表7とコージブスキーのモデル⁸⁾



6 本章の考察

本章ではクリスティーナ・ホール、ジョン・グリーンダー、薄井坦子、地橋秀雄、コージブスキーの5者の認識論のモデルを図示し比較した。グリーンダーは、クリスティーナのモデルの「データ」(一次的体験)に至るまでの過程を「F1」, 「データ」(一次的体験)から「情報」(二次的体験)に至るまでの過程を「F2」という概念を使って説明している。そのF1, FA, F2, データ, 情報という概念を薄井坦子の認識論のモデルにあてはめたのが図表5である。さらに、薄井、グリーンダー、クリスティーナを統合したモデル(図表5を作成し直した図表7)と地橋秀雄のモデル(図表6)とを対比した。また、コージブスキーの「対象言語」と「メタ言語」を使うと薄井のモデルの「表現」を詳細に説明できる(図表9)。これで、5つの認識論における概念の対応関係(あくまで筆者の解釈に基づくもの)が整理できた。第IV章では、これらのモデルを統合して作成した「認識のプロセスの観察シート」を紹介するが、その前に地橋の理論を次章で要約する。

III 事実と妄想の識別と「認識のプロセスの観察シート」

次章で紹介する「認識のプロセスの観察シート」を活用すると、認識論の諸概念が理解しやすくなる。本章では、このシートを有効活用するために、地橋(2006)の事実と妄想の識別の必要性、心のフィルターといったテーマについて要約して掲載(下線は筆者)する。

1 事実と妄想の識別の必要性

地橋は、事実（現実）と妄想（概念）の識別の必要性について以下のように説明する。

心は散乱する基本傾向があり、自然放置すれば取りとめもない散漫な妄想や連想に流される。事実をありのままに見ないで、思い込みや自己中心的な妄想で編集した世界を心の中に作り出し、それに対して嫌悪や不安、欲望、執着などの不善なる反応を起こす。事実と妄想を識別しないと、欲望や嫌悪などの煩悩が暴れ出して私たちの人生を苦しいものにしてしまうので、妄想を離れ、色眼鏡を外して、裸眼の観察でものごとの本質を洞察していく必要がある。私たちは概念の嵐が頭の中で暴れまわっており、心に形成されるこの概念の世界（外部の現象に由来するのではなく）から苦が発生してくる。そこで、事実の世界と概念の世界を厳密に識別し、事実の世界の本質を洞察していく必要がある。（地橋，2006，p. 12，pp. 5-6，p. 20，p. 6，p. 11，p. 31，p. 65，筆者が一部加筆修正）

この事実（対象，現実）の世界と妄想（概念）の世界との識別を見える化するのが、次章で紹介する「認識のプロセスの観察シート」である。なお、妄想を止める手段として「サティ」という技術がある。例えば、「見た」「聞いた」「考えた」とラベリングする技術である。そのサティを使い自分の認識プロセスを分析した人の事例を地橋は紹介している。

その人は、途中で湧き起こる雑念に「思考」「妄想」とサティを入れていたのだが、なかなか雑念が鎮まらないので、心をよく観ようと集中した。注意を絞り込んでよく視ると、たんなる雑念ではなく、微かに嫌悪感をともなっているのが分かった。そこで「イライラしている」とラベリングし、「イメージ（部下の顔）」→「批判している」と心を随観していった。さらに、「自分のやり方に従わせようとしている」→「（自分の方法に）執着している」→「攻撃性」→「〔絶対に負けたくない〕と思った」→「悲しみ」→「屈辱の感覚」→「あの事件（バカにされ、激しく傷ついた）」→「劣等感」……と展開していった。ここで最も中心的な働きをしていたのは、「分析力」である。（地橋，2006，pp. 20-21，筆者が一部加筆修正）

この記述では妄想や連想（「概念の嵐」）が展開する（暴れまわる）プロセスをわかりやすく模写している。このような思考のプロセスを見える化するのが「認識のプロセスの観察シート」である。また、地橋は、別の方向の分析もあるという。

一瞬一瞬の知覚対象を、(眼で)見た、(耳で)聞いた、(鼻で)嗅いだ、(舌で)味わった、(身体で)感じた、(心で)思った……と仕分けることによって、入力情報と六門 (情報をキャッチする眼・耳・鼻・舌などの感覚受容器) と意識の接触以外に何も存在していないことを検証する分析の方向もある。(地橋, 2006, pp. 21-22, 筆者が一部加筆修正)

「認識のプロセスの観察シート」を使うと、このような分析を知的に理解させることができる。

2 心のフィルター

地橋は、夕暮れ時の山道で、古いロープを眼にした瞬間「蛇だ!」と錯覚し、恐怖に震えた人の事例も紹介している。

朝、民宿を出がけに「蛇が多いので気をつけなさい」と軽く言われた一言が、その人の情報の歪みに一役買っているかもしれない。蛇に咬まれた体験がある人となない人では瞬間的な妄想の膨れ方が違うだろう。臆病なのか、攻撃的なのか、何に劣等感を持っているのか、慈悲の瞑想を知っているのか、自己中心的な発想パターンの有無は……等々、潜在意識では、無数の要因が千分の一秒や万分の一秒の速さで働いて、情報処理の正確さや加工・歪曲などに影響を及ぼしている。そこで、反応系(出力系)の心を浄らかにしていかなければならない。(地橋, 2006, pp. 83-84, p. 89, 筆者が一部加筆修正)

このような情報の歪みに影響を及ぼすものについて、地橋は「心のフィルター」という概念で説明する。

私たちの見るもの、聞くもの、感じるもの、知覚するものは常に誤解と錯覚だけであり、先入観や思い込み、早とちり、思考の編集、エゴの検閲など、諸々の心のフィルターがかかって情報が歪む。(地橋, 2006, p. 72, 筆者が一部加筆修正)

この心のフィルターに特定の質問が影響を与えることかできるかどうかという点については、第V章で考察していく。

3 本章の考察

本章では、事実と妄想を識別し、事実の世界の本質を洞察する必要性と、人の情報処理の正確さや加工・歪曲などに影響を及ぼしている心のフィルターについて地橋の説明を要約して紹介した。

地橋によると、「何万回も繰り返して脳の中にできた電車道のような反応パターン」⁹⁾を修正するには、①自分の妄想にラベリングし、事実と妄想を識別（自分の認識プロセスを分析）するアプローチ、②入力情報、六門（感覚器官）と意識の接触以外に何も存在しないことを検証する分析のアプローチ、③自分の反応パターンを修正するアプローチの3種類があると整理できる。このうち①②については次章で紹介する「認識のプロセスの観察シート」が有用になる。③については別の研究で考察する。

IV 5つの認識論のモデルと「認識のプロセスの観察シート」

本章では、既述の5人の認識論のモデルを統合して作成した「認識のプロセスの観察シート」を紹介し、受講生が実際に記入したシートを考察する。

1 認識のプロセスの観察シート

第II章では、クリスティーナ・ホール、ジョン・グリンダー、薄井坦子、地橋秀雄、コージブスキーの5つの認識論のモデルを図示・比較しながら考察した。また、第III章では、事実と妄想の識別の必要性、心のフィルターといったテーマについて地橋（2006）の説明を要約した。

つづく本章では、これらの理論をベースに作成した「認識のプロセスの観察シート」¹⁰⁾の一部（図表10）を紹介する。そのシートの横にコージブスキーの一般意味論のモデルを対比させ、事実と妄想の概念も書き加える。これで、5つのモデルが具体的に比較・理解でき、事実と妄想の識別も明確になる。このシートを活用することで効果的な認識論の教育ができるようになる。

認識プロセスの観察のシート（図表10）を下から見ると、「対象／無数の感覚データ」からスタートしている。私たちは「無数の感覚データ」に取り囲まれて生活している（対象・現実）。そのうち限定された量のデータを感知する。この段階がFA（識・認識）である。その感知した「データ」のうちのいくつかを意識化し、言語化させるのが「今、感知（五感で）していることは？」という質問である。回答した段階では、すでに言語化させているので、情報（想）と捉えられる。感知した瞬間に、地橋のモデルでは、苦受、楽受、不苦不楽受が生じるという。正確には「受」は識（FA）のすぐ上に入れた方が適切

図表10 「認識のプロセスの観察シート」とコージブスキーの一般意味論

		No.	Q	日時	①	②
					/ () :	/ () :
知識	反応	7	さらに考え続けていること			
		F2	削除, 歪曲, 一般化	削除, 歪曲, 一般化	削除, 歪曲, 一般化	
知識	想	6	今, 考え続けていることは?			
		F2	削除, 歪曲, 一般化	削除, 歪曲, 一般化	削除, 歪曲, 一般化	
知識	想	5	今, 考えていることは?			
		F2	削除, 歪曲, 一般化	削除, 歪曲, 一般化	削除, 歪曲, 一般化	
知識	想	4	今, 思っていることは?			
		F2	削除, 歪曲, 一般化	削除, 歪曲, 一般化	削除, 歪曲, 一般化	
	受	3	今の気分は? (楽受, 苦受, 不楽不苦受)			
		F2	削除, 歪曲, 一般化	削除, 歪曲, 一般化	削除, 歪曲, 一般化	
情報	識・想	1	今, その他に感知していることは? (VAK)			
		F2	削除, 歪曲, 一般化	削除, 歪曲, 一般化	削除, 歪曲, 一般化	
情報	識・想	1	今, 感知(五感で)していることは? (VAK)			
		F2	削除, 歪曲, 一般化	削除, 歪曲, 一般化	削除, 歪曲, 一般化	
データ	識	FA	感知しているもの			
		F1	削除, 歪曲, 一般化	削除, 歪曲, 一般化	削除, 歪曲, 一般化	
	対象		無数の感覚データ	① 膨大な量の感覚情報	① 膨大な量の感覚情報	

メタ言語5
削除, 歪曲, 一般化

メタ言語4
削除, 歪曲, 一般化

メタ言語3
削除, 歪曲, 一般化

メタ言語2
削除, 歪曲, 一般化

メタ言語1
削除, 歪曲, 一般化

対象言語2
削除, 歪曲, 一般化

対象言語1
削除, 歪曲, 一般化

認識

現実

図表11 「認識のプロセスの観察シート」とコージブスキーの一般意味論

知識	想	5	今, 考えていることは?			
		F2	削除, 歪曲, 一般化	削除, 歪曲, 一般化	削除, 歪曲, 一般化	
知識	想	4	今, 思っていることは?			
		F2	削除, 歪曲, 一般化	削除, 歪曲, 一般化	削除, 歪曲, 一般化	
情報	想	1	今, その他に感知していることは? (VAK)			
		F2	削除, 歪曲, 一般化	削除, 歪曲, 一般化	削除, 歪曲, 一般化	
情報	想	1	今, 感知(五感で)していることは? (VAK)			
		F2	削除, 歪曲, 一般化	削除, 歪曲, 一般化	削除, 歪曲, 一般化	
	受	3	今の気分は? (楽受, 苦受, 不楽不苦受)			
		F2	削除, 歪曲, 一般化	削除, 歪曲, 一般化	削除, 歪曲, 一般化	
データ	識	FA	感知しているもの			
		F1	削除, 歪曲, 一般化	削除, 歪曲, 一般化	削除, 歪曲, 一般化	
	対象		無数の感覚データ	① 膨大な量の感覚情報	① 膨大な量の感覚情報	

メタ言語2
削除, 歪曲, 一般化

メタ言語1
削除, 歪曲, 一般化

対象言語2
削除, 歪曲, 一般化

対象言語1
削除, 歪曲, 一般化

認識

現実

であり、丁寧に表現するならば以下の図（図表11）になる。

ただし、感知した瞬間に「受」が発現していることを回答者に分析させるために図表10の順番にした（質問 No. 1 の回答は「情報／識・想」と表現）。その後、「思っていること」や「考えていること」などのさまざまな妄想の連鎖が続いていく。シートの中の「思っていること」と「考えていること」といった表現やその区別は厳密なものではない。なお、第三章で紹介した雑念がなかなか鎮まらない人の事例（地橋が紹介した）とこのシートのプロセスとの違いについてもコメントしておく。一連の思考の間に自分の感知したもの（五感情報）を意識化するプロセスがこのシートには組み込まれている点はその事例との違いである。このプロセスが思考の連鎖に影響を与える可能性があり、この点に関しては受講生Wのシートを分析する際に考察を少し加える。

2 「認識のプロセスの観察シート」とコージブスキーの一般意味論との対比

このシートをコージブスキーの一般意味論の概念と対比させると、「感知しているもの（データ／識）」が「認識」となり、「今、感知（五感で）していることは？」より上にある質問とその回答はすべて対象言語とメタ言語の連鎖である。「対象言語」でさえ削除・歪曲・一般化のフィルター（F1 と F2）を通過しており、対象とイコールにはならない。メタ言語にいたっては、対象からかなり変形されたものである。私たちが現実（対象）だと思っているものの多くは私たちの思考の産物（妄想，概念）にすぎない。さらにその思考の産物であるメタ言語が新たな現実を創造することもある¹¹⁾。このシートを活用すると事実と概念（妄想）の区別、妄想の展開についても理解しやすい。

3 受講生Hが記入した「認識のプロセスの観察シート」の考察

当該講義で、このシートを受講生に渡し、自宅で記入させた。この作業により、受講生は毎瞬、毎瞬、どのようなプロセスで認識しているのかを意識化することができ、認識論（5つの認識論のモデル）についての理解が深まる。以下では、当該講義の受講生Hと受講生Wのシートの一部を本人の許可を得て、掲載する。

Hのシートを一見すると、取りとめもない散漫な連想が続いていることがわかる。仮に目をつぶり、呼吸に合わせて1から10までの数を数えることをしても、自分の頭の中が妄想の連鎖であることを理解できるが、このように自分の頭の中で何が行われているかを書き出してみてもそのことが明確になる。

このシートでは、回答欄の左横に番号数字を記入するようになっていて、認識のプロセスの順番を記入する。例えば「1/12（木）22：05」時点の記入を見る（その欄だけ筆者が囲んだ）と、「①疲れた→②家に着いた→③苦受→④玄関の電気（V）→⑤くつ（V）→

図表12 認識のプロセスの観察シート（Hの記入例の一部）

	No.	Q	日時		①	②	③	④	⑤
			1/12(木)22:05	1/12(木)22:06	1/12(木)22:08	1/12(木)22:09	1/12(木)22:12		
知識	反応	7	さらに考え続けていること	⑦暖房つけようか	⑦とりあえず替替えよう。	⑦面白い。	⑦おなかついた。	⑦何か食べるものあったかな。	
	尋	F2	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	
知識	想	6	今、考え続けていることは？	⑥寒い。	⑥ハロゲン暖かい。	⑥逆転の発想ね。	⑥このおっさん、すごい。	⑥おなかついた。	
	尋	F2	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	
知識	想	5	今、考えていることは？	⑤家に着いた。	⑤おなかついた。	⑤今日のカンパリアの会社面白い。	⑤このおっさん、すごいかも。	②やればできるんだな。	
	尋	F2	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	
知識	想	4	今、思っていることは？	④疲れた。	④疲れた。	④カンパリア面白い。	④カンパリア面白い。	④カンパリア面白い。	
	F2	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	
	受	3	今の気分は？ (楽受、苦受、不楽不苦受)	③苦	③苦	③楽	②楽	③楽	
	F2	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	
情報	識・想	1	今、その他に感知していることは？ (VAK)	⑤くつ(V)	②お尻が勝手に触れている(K)	②テレビ画面(V)	④テレビの音(A)	⑤テレビの音(A)	
	F2	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	
情報	識・想	1	今、感知(五感で)していることは？ (VAK)	④玄関の電気(V)	①リビングの電気(V)	①カーペット(V)	③テレビ画面(V)	④テレビ画面(V)	
	F2	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	
データ	識	FA	感知しているもの	感知しているもの	感知しているもの	感知しているもの	感知しているもの	感知しているもの	
	触	F1	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	
対象			無数の感覚データ	⑧膨大な量の感覚情報	⑧膨大な量の感覚情報	⑧膨大な量の感覚情報	⑧膨大な量の感覚情報	⑧膨大な量の感覚情報	

妄想

事実

⑥寒い→⑦暖房つけようか」というプロセスで認識が行われたとHは捉えたようである。ただし、実際の認識のプロセスがこのように行われたとは言えないだろう。本人が意識できていないところ（無意識下）で、感覚データを感知し、その瞬間に「受」が生じ、その感知した情報から「疲れた」とラベリングした可能性が高い（通常、なんらかの体の感覚があり、「疲れた」と思うものだろう）。

このように記入された本シートを活用することで、認識論の各概念が具体的に理解でき、自分の認識プロセスが実際にどのように展開されているのかを分析することができる。また、自分が妄想の世界に住んでいる時間がいかに長いかを理解するのに役立つ。

4 受講生Hの認識の方向の変化に関する考察

図表12, 13のHのシートの「受」の欄を見ると、1, 2回目の記入時は、「苦(受)」と書いているが、3~7回目までは、「楽(受)」, 8~10回目は再び「苦(受)と楽(受)と半々」などと書いている。

図表13 受講生Hの「受」の変化(1~5回目)

		①	②	③	④	⑤	
受	3	今の気分は？ (楽受、苦受、不楽不苦受)	③苦	③苦	③楽	②楽	③楽

Hのシートの「受」の欄だけを見ても、10分程度の短い時間の間に、認識の方向が変化し続けていることがわかる。また、「想」と「反応」の欄を見ても、様々な思考(妄想)

が絶え間なく展開し続けていて、自分が作り出し、編集した概念の世界に意識が向き続けていることがわかる。

5 受講生Wが記入した「認識のプロセスの観察シート」の考察

図表14のWのシートで認識のプロセスを見ても、取りとめもない連想が続いていることがわかる。

図表14 認識のプロセスの観察シート (Wの記入例の一部)

	No.	Q	日時					
			④ 1/5(木) 6:27	⑤ 1/5(木) 6:30	⑥ 1/5(木) 6:32	⑦ 1/5(木) 6:34	⑧ 1/5(木) 6:35	
知識	反応	7	さらに考え続けていること	④ ラジオ体操とテレビ体操はプログラムが違うもんな	⑦ 朝、続けよう	④ 年始から曜日担当が変わったんだ	② テレビ通販みたいなこと考えているな	③ 本当は公園でやりたい
尋	F2		削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化
知識	想	6	今、考え続けていることは？	③ 気持ちいいだろうな	⑥ ラジオ体操をさぼると痛い	③ 本曜日の男性で本曜日のプログラムだ	⑥ いつまでも若々しくいたい	② ラジオ体操大好きなんだ
尋	F2		削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化
知識	想	5	今、考えていることは？	② 今頃王子公園で、みんなラジオ体操しているのかな	⑤ 夜のストレッチとラジオ体操の伸ばす筋肉が違うからだ	② 今日は火曜日なのに	⑤ このままじゃ老いるな	① あっという間に終わった
尋	F2		削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化
知識	想	4	今、思っていることは？	① やればできる	④ 痛すぎる	① なぜラジオ体操1と2で今日は男性なんだ？	④ 伸ばさないと筋肉は固くなる	④ どれも辛い
尋	F2		削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化
受		3	今の気分は？ (楽受、苦受、不楽不受)	⑦ 苦受	③ 苦受	⑦ 苦受	③ 楽受	⑦ 楽受
尋	F2		削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化
情報	識・想	1	今、その他に感知していることは？ (VAK)	⑥ テレビから聞こえる男性の声	② アキレスけんの痛み	⑥ 太ももの痛み	② テレビの男性の声	⑥ 炊けたごはんの匂い
尋	F2		削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化
情報	識・想	1	今、感知(五感で)していることは？ (VAK)	⑤ 足の裏の冷たさ	① 太ももの裏の痛み	⑤ 腰の痛み	① 痛気持ちいい	⑤ 太ももの裏の痛み
尋	F2		削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化
データ	識	FA	感知しているもの	感知しているもの	感知しているもの	感知しているもの	感知しているもの	感知しているもの
触	F1		削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化	削除、歪曲、一般化
対象			無数の感覚データ	⑧ 膨大な量の感覚情報	⑧ 膨大な量の感覚情報	⑧ 膨大な量の感覚情報	⑧ 膨大な量の感覚情報	⑧ 膨大な量の感覚情報

妄想

事実

WのシートのNO.の欄に注目すると、10回の記録のうち〔④1/5(木)6:27〕,〔⑥1/5(木)6:32〕,〔⑧1/5(木)6:35〕を除いた7回は、「1. 今、感知していることは？」という質問に対する回答から始まり(シートの中で1番初めに回答した欄を筆者が囲んだ)、下から上に順番に答えている。ただ、上記の前2回は、「今、思っていることは？」の回答(「やればできる」と「なぜラジオ体操は1と2で今日は男性なんだ?」)から始まり、〔⑧1/5(木)6:35〕は「今、考えていることは？」の回答(「あっという間に終わった」)から始まっている。「想」は必ずしも感覚データから始まるとは限らず、今回も前の瞬間に考えていたこと(「想」)から新たな「想」が開始された(つまり以前の「想」が数珠繋ぎに延々と続いていた)ものと推知できる。ただし、シートを埋めるために、思い出したように、感知していることは何か、苦受か楽受かと自問自答したのだろう。この点に関し

で、後でシートを振り返ったWは「あれこれ考えている時でも、ふと苦か楽か自問したり、五感に意識を向けたりしたことで、気持ちを切り替えやすかったのではないかと思う。」と話した。このコメントは興味深い。例えば、妄想に耽っているクライアントに今何が聴こえているか（あるいは、感じているか、見えているか）を質問して言語化させることは、多少なりとも妄想から抜け出させ、気分を転換させる可能性がある。

また、毎瞬毎瞬、無意識レベルで行われている認識のプロセスを書き写すことは至難の技だ（第一、スピードも追いつかない）が、妄想（概念）が縦横無尽に展開されていることを意識化できることには価値がある。

6 受講生Wの認識の方向の変化に関する考察

図表14, 15のWのシートの「受」の欄を見ると、6回目までは「苦受」と書いているが、7回目から10回目までは、「楽受」と書いている。

図表15 受講生Wの「受」の変化（4～8回目）

			④	⑤	⑥	⑦	⑧
受	3	今の気分は？ (楽受, 苦受, 不楽不苦受)	⑦ 苦受	③ 苦受	⑦ 苦受	③ 楽受	⑦ 楽受

Wのシートの「受」の欄だけを見ても、10分以内の短い時間の間に、Wの認識の方向は変化した。また、「想」「反応」も思考が思考を呼び、次から次へと展開している（概念の嵐が頭の中で暴れまわっている）様子がみとれる。さらに、こうした思考（の方向）に何が影響を与えるのか、どのような心のフィルターがかかって情報が歪み、加工、編集されているのかといった点は興味深い。特定の質問がこうした認識の方向、プロセスに影響を与えることができるかどうかという点については次章で考察する。

7 本章の考察

本章では認識のプロセスの観察シートを紹介した。「認識のプロセスの観察のシート」に記入し、それを分析することで、5つの認識論の諸概念を具体的に理解できるだけでなく、妄想（概念）が縦横無尽に展開されており、認識の方向も変化し続けていることに気づけるという示唆が得られた。また、思考の途中に自分の感覚に意識を向けることにより、妄想から抜け出させ、気分転換させる可能性があるというヒントも得られた。

V 「一般化のプロセスを方向づける」質問のシートと認識の方向を変える質問

本章では、クリスティーナ・ホルの「一般化のプロセスを方向づける」質問を取り入れたシートを紹介する。受講生2人のシートを紹介し考察することで、一連の質問が認識

の方向に影響を与えたことが明らかになる。

1 「一般化のプロセスを方向づける」質問の講義への導入

前章では「認識のプロセスを観察するシート」を使い、2人の認識のプロセスを概観した。取りとめもない連想が展開されていることを見える化できた。事実と妄想を識別して分析すると、妄想（概念）の世界にほとんどの時間住んでいることが理解できる。また、こうした連想（妄想，概念）には心のフィルターがかかっている、情報が歪んでいる¹²⁾。

本章では、こうした認識のプロセス（あるいは、心のフィルター）に影響を与える質問と、その質問を活用したシートについて考察する。具体的にはクリスティーナ・ホルの「一般化のプロセスを方向づける」質問を使う。本章でも、受講生HとWが記入した「一般化のプロセスを方向づける」質問のシートの一部を本人の承諾を得た上で掲載し、考察する。当該講義では、この質問のデモンストレーションを一度見せたものの、詳しい説明を加えないまま、自宅でシートに記入してくるように指示した。

2 クリスティーナ・ホルの「一般化のプロセスを方向づける」質問

まずクリスティーナ・ホルが開発した「一般化のプロセスを方向づける」質問とは以下の一連の質問¹³⁾である。

図表16 「一般化のプロセスを方向づける」質問

No.	Q
1	「あなたが、たった今、もっとも気づいていること（見，聞，感，3つずつ）は何ですか？」
2	「あなたは、どのようにこのすべてを理解しますか？」
3	「あなたにとって、このすべては何を意味しますか……この時点で？」
4	「あなたは、このすべてに関して、どのような一般化（複数）ができますか？」
5	「そして、このすべては、あなたにとって、あなたのために、どのように役に立つのでしょうか、あなたが未来に入って、未来の中を進んでいくときに……今からはじめて？」
1	「あなたは、今まで気づいていなかったことで、今何に気づいていますか？」
2	「あなたは、どのようにこのすべてを理解しますか？」
3	「あなたにとって、このすべては何を意味しますか……この時点で？」
4	「あなたは、このすべてに関して、どのような一般化（複数）ができますか？」
5	「そして、このすべては、あなたにとって、あなたのために、どのように役に立つのでしょうか、あなたが未来に入って、未来の中を進んでいくときに……今からはじめて？」
6	「より大きなこの環境と関係して、あなたは今どのように異なったしかたで注意を集中していますか？」
7	「あなたは今どのようにこの環境と関わっていますか？」
8	「このすべてが、どのようにあなたの経験を豊かにしますか？」

3 受講生Hが記入した「一般化のプロセスを方向づける」質問シートの考察

ここでは、受講生Hが記入したシートの一部を掲載して考察する。

図表17 「一般化のプロセスを方向づける」質問のシート（Hの記入例の一部）

No.	Q	日時	12/24 (土) 17:01	12/29 (木) 05:04	12/30 (金) 16:42			
8	このすべてが、どのようにあなたの経験を豊かにしますか？		家族との関わりは大切。	一日を充実して過ごすための段取りの重要性	元気のものであり、これからの活力			
7	あなたは今どのようにこの環境と関わっていますか？		単純にうれしい。	思ったこと、考えたことを述べる	子供たちとの時間を大切に共有している			
6	より大きな環境と関係して、あなたは今、どのような異なったしかたで注意を集中していますか？		気持ちを楽にして集中している。	そのままを受け止める。	気持ちを楽にして集中している。			
理解	5	そして、このすべては、あなたにとって、あなたのために、どのように役に立つのでしょうか、あなたが未来の中に入って、未来の中を進んでいくときに…今からはじめて？	心を落ち着かせることが出来る家族の存在	平穏な環境で過ごすことが出来る。	行動することが重要	成長している可能性	平穏な日常に在る。	娘たちと過ごす貴重な時間
知識	4	あなたは、このすべてに関して、どのような一般化ができますか？(複数)	・関西ではない。 ・安堵感。 ・落ち着いている。	・幸福 ・高揚感	・少し疲労感。 ・今日の行動の整理 ・睡眠不十分 ・嫌悪感	・集中する。 ・短時間勝負 ・自分への投資。	・リラックス ・休息・貴重な時間 ・疲労感	・リラックス ・幸福・興奮 ・感謝・元気
知識	3	あなたにとって、このすべては何を意味しますか？…この時点で。	東京の自宅に向かっている。	もうすぐ家族に会えている。	今日のスタート	落ち着ける時間。	家族と団楽中。	めったにない時間。
知識	2	あなたは、どのようにこのすべてを理解しますか？	ようやく着いた。	ワクワク、少しドキドキ	起床した。	一日を有意義に過ごす。	自宅に在る。	娘たちと同じ空間を共有している。
情報	1	たった今、もっとも気づいていることは？	A ①人々 ②信号 ③病院の看板 V ④電車の音 ⑤車の音 ⑥すれ違う人の声 K ⑦左肩が重い ⑧膝が重い ⑨右差し指が冷たい ⑩左差し指が冷たい	A ①病院の看板 ②電灯 ③ V ④電車の音 ⑤車の音 ⑥自転車の音 K ⑦左目が重い ⑧右ひざが痛い ⑨頭の奥が重い	A ①ワファーフ ②カーペット ③イス V ④時計の音 ⑤テレビの音 ⑥風呂の音 K ⑦背中が張っている ⑧右ひざが痛い ⑨左手の中指が冷たい	A ①リビングの電気 ②イス ③洗濯物 V ④時計の音 ⑤テレビの音 ⑥風呂の音 ⑦娘たちの声 ⑧足先の指先が冷たい ⑨背中が張っている ⑩足の指先が冷たい	A ①娘たちの姿 ②リビングの電気 ③天井 ④洗面物 ⑤時計の音 ⑥テレビの音 ⑦娘たちの声 ⑧足先の指先が冷たい ⑨背中が張っている ⑩足の指先が冷たい	
データ	0	無数の感覚データ	膨大な量の感覚情報	膨大な量の感覚情報	膨大な量の感覚情報	膨大な量の感覚情報	膨大な量の感覚情報	膨大な量の感覚情報

Hの場合、2回目(12/24(土)17:01)の4の質問(2回目の一般化の質問)に対して、「幸福、高揚感」(12/24),「集中する、短時間勝負、自分への投資」(12/29),「リラックス、幸福感、興奮・感謝・元気」(12/30)といった言葉が記入されている。同じ感知情報に対して多様な一般化がされ、ポジティブな言葉が並んでいる。また、6の質問については、「気持ちを楽にして集中している」(12/24, 12/30),「そのままを受け止める」(12/29)という言葉が記入されている。この一連の質問は、感知した五感情報からスタートして順に抽象化していくプロセスになっているが、ポジティブな一般化が行われたことが確認できる。同じHが記入した「認識のプロセスの観察シート」(図表12)上の取りとめもない散漫な連想が続いていることと比較すると大きな違いが見られる。

4 受講生Wが記入した「一般化のプロセスを方向づける」質問シートの考察

続いて受講生Wが記入したシートの一部を掲載して考察する。

図表18 「一般化のプロセスを方向づける」質問のシート（Wの記入例の一部）

No.	Q	日時	12/31 (土) 18:47	12/31 (土) 20:23	12/31 (土) 20:30	
8	このすべてが、どのようにあなたの経験を豊かにしますか？		今ここが大事だと思う	よく読んで考えて生きようとしている	変わらないものの存在に気づき今を大事にする	
7	あなたは今どのようにこの環境と関わっていますか？	削除、歪曲、一般化	この環境に集中している	素直になろうとしている	より観察しようとしている	
6	より大きな環境と関係して、あなたは今、どのような異なったしかたで注意を集中していますか？	削除、歪曲、一般化	職場でも同じようにしようと思っている	中国の宇宙開発を気にしている 政治と生活をつなげて考えている	・他の星にも注目する ・もっと周りの幸せに注意する	
理解	5	そして、このすべては、あなたにとって、あなたのために、どのように役に立つのでしょうか、あなたが未来の中に入って、未来の中を進んでいくときに…今からはじめて？	守るパワーが生まれる	・きれいな家に住み続ける ・モノを厳選して使う	・無事新しい年を迎えられる ・みんなに包まれてパワーが生まれてくる	・安心安全な夜を守る ・星を守る
知識	4	あなたは、このすべてに関して、どのような一般化ができますか？（複数）	・家族が揃うと安心する ・食べるものがあると安心する ・息子がうるさいということは、元気だということだ	・掃除した家の気持ちよさ ・年末は静かだ ・原付バイクが行きかう ・何とかなってやった	・冬はやっぱりオリオン座 ・星がきれいな夜 ・郵便配達の人ありがとう	・三日月は関学である ・歌詞をそのままLUNAに飛ばしたい ・私は関学に愛着を持っている ・関学はみんなに愛されている
知識	3	あなたにとって、このすべては何を意味しますか？…この時点で。	幸せ	気持ちのいい休み	年末	生きている
知識	2	あなたは、どのようにこのすべてを理解しますか？	今にフォーカス	今にフォーカス	今を見て	今を感じている
情報	1	たった今、もっとも気づいていることは？	①息子の叫び声 ②電子レンジのピーピーという音 ③娘が帰って来て玄関についた灯り V ①白いタンスに映る息子の影 ②睡っている息子 ③ちよっとくたれた息子のパジャマ K ①左指先の血流 ②ペンの冷たさ ③息苦しさ	①ドラゴンボールの音楽 ②アロマデュフューザーの音 ③スリッパの音 V ①銀色の包み紙 ②息子の唇 ③息子のまつげ K ①チョコレートの香り ②お腹の温かみ ③高等部の熱さ	①淵溝を流れる水の音 ②宅配バイクのエンジン音 ③マンホールの下の水の音 V ①一軒家の玄関灯 ②原付バイクの男性 ③テマークの灯 K ①スニーカーの靴底 ②ひざ下の冷たさ ③頬の中の温かみ	①自分の足音 ②はかの家のボーイラ音 ③遠くから聞こえる救急車のサイレン A ①純香の三日月 ②換気扇の音 ③息子の独り芝居の声 V ①紅白 ②白い陶器の貯金箱 ③PC K ①髪の毛が揺れている ②おしりの温かみ ③足の冷え ④小走りで踏む足裏
データ	0	無数の感覚データ	膨大な量の感覚情報	膨大な量の感覚情報	膨大な量の感覚情報	膨大な量の感覚情報

Wの場合、2回目の4の質問（2回目の一般化の質問）に対して、「掃除した家の気持ちよさ、香りのある部屋の心地良さ、頑張った後の満足感」（12/31（土）18：47）、「冬はやっぱりオリオン座、星がきれいな夜、郵便配達の人ありがとう」（12/31（土）20：23）、「見上げるというのは意識して行うことだ、見上げると深呼吸しやすい、今年は何回深呼吸したのだろう、オリオン座最高」（12/31（土）20：30）とやはり多彩な一般化が行われ、ポジティブな言葉が記入されている。7の質問に対しては「この環境に集中している」

(12/31 (土) 18:47), 「素直になろうとしている」(12/31 (土) 20:23), 「より観察しようとしている」(12/31 (土) 20:30)という言葉が記入されている。

クリスティーナ・ホールは、コーチングでクライアントにこの質問をした後で、「自分にリソースがあったと気づいた」というフィードバックをもらったと話した。感知した五感情報にポジティブな意味づけがされた結果、そうした情報がリソースになると気づいたものと考えられる。今回紹介した2人ともこの一連の質問によって、ポジティブな一般化が並び、その瞬間の認識のあり方も「気持ちを楽にして集中」、「そのままを受け止め」、「この環境に集中」、「素直になろう」「より観察しよう」としているなどといったものに変化した。図表12、図表14と図表17、図表18とを比較すると、クリスティーナ・ホールの一連の質問をしたことで、情報が抽象(一般)化されるとともに、ポジティブな方向づけがされたことがわかる。また、その瞬間における認識のあり方も変化したことがわかる。

5 本章の考察

前章では第Ⅱ章で紹介した5つの認識論のモデルをもとに作成した「認識のプロセスを観察するシート」を使って受講生の認識プロセスを考察した。10分程度の短い時間の間にも、認識の方向は変化し続けていた。このシートを使うことにより、認識のプロセスを見える化でき、事実と妄想を識別しやすくなる。認識論の教育に効果的という示唆が得られた。

続く本章では、受講生が記入した「一般化のプロセスを方向づける」質問シートを考察した。このシートも「認識のプロセスを観察するシート」も、五感で感知した情報を処理し、思考を展開している点は同じだが、受講生2人の記入したシートからは思考の内容に大きな相違が見られた。前者は、取りとめもない散漫な連想が続いているが、後者はポジティブな一般化した思考が見られた。一連の質問が特定のスキーマを与え(心のフィルターに影響を与え)、認識の方向(情報処理の方向)に影響を与えたものと考察できる。この知見は人材開発手法を考察する際に有用となる。ただし、今回は2人の事例しか考察しておらず、結論づけるには、さらに多数の事例を検討する必要がある。

VI おわりに

本稿では、人材開発論の講義における認識論の効果的な教育方法について考察した。筆者はこれまで3本の原稿で認識論を学際的にレビューしてきたが、その中から5つの認識論を図示・比較し、それらの認識論を教育するツールとして2つのシートを紹介した。実際に2人の受講生が記入したシートを考察した。

まず第Ⅰ章で本稿のテーマを説明した後で、第Ⅱ章でクリスティーナ・ホール、ジョン・

グリーンダー，薄井坦子，地橋秀雄，コージブスキー 5つの認識論のモデルを概説した。それぞれのモデルを図示・比較したことで，各理論の概念の対応関係が整理でき，包括的に認識論が理解できるようになった。また，第Ⅲ章では，地橋の文章を要約して，事実（現実）と妄想（概念）を識別することの必要性や妄想の展開に影響を与える心のフィルターについて紹介した。つづく第Ⅳ章では，これらの知識を活用した「認識のプロセスの観察シート」を紹介した。そのシートをコージブスキーの一般意味論のモデルと対比してみることで，事実と妄想の違いを図示できた。また，受講生2人が記入したシートを考察し，妄想が縦横無尽に展開され，認識の方向が変化し続けていることも確認できた。このシートを受講生自身が記入することで，日常とは少し異なった認識プロセスを体験できる。人材開発論の講義でこのシートを活用することで，受講生は認識論の理解が進むだけでなく，事実と妄想の識別が明確になり，自分が感知していると思っていることや考えていることは対象（事実）からいくつものフィルター（F1, F2）を通過して変形されたものであることが理解できる。既に変形されたものは事実ではなく妄想であり，その妄想が人を苦しめることもあるという説明もしやすくなる。また，思考の途中で自分の感覚に意識を向けることにより，妄想から抜け出し，気分転換できる可能性があるという示唆も受講生の感想から得られた。

さらに，第Ⅴ章では，クリスティーナ・ホール博士の「一般化のプロセスを方向づける」質問のシートを考察した。受講生2人が記入した「認識のプロセスの観察シート」と「一般化のプロセスを方向づける」質問のシートとを比較することで一連の質問が認識の方向に影響を与えたことが考察できた。両方のシートとも五感の情報からスタートし思考を一般化させるものであったが，的確な一連の質問は情報処理の方法を変え，認識を一定の方向に変える効果があるという示唆が得られた。この知見は人材開発手法を考察する際にも有用である。ただし，本稿では2人のケースを考察したに過ぎないため，結論づけるにはさらなる考察が必要となる。また，本稿で紹介した5つの理論（モデル）とそれらのモデルを活用した2つのシートを導入することで，効果的な認識論教育ができるという示唆も得られた。

注

- 1) 加藤雄士（2016 a b），加藤雄士（2018）の3本で，西洋哲学における認識論，知識創造企業論における認識論，グレゴリー・ベイトソン，クリスティーナ・ホール，看護学（海保静子，南郷継正，薄井坦子），地橋秀雄，養老孟司，釈迦の仏教，般若心経（大乘仏教），コージブスキー，大脳生理学，認知心理学における認識論のモデルをレビューしてきた。
- 2) 2016年10月から関西学院大学経営戦略研究科で開講された講義である。3時間の講義を7回実施した。受講生は7人であった。この講義の研究成果として，加藤雄士（2017）がある。

- 3) クリステイーナ・ホール (2008) pp. 29-33, p. 169. 図表 1 は筆者の解釈をもとに作成した。
- 4) John Grinder & Carmen Bostic St Clair (2001) P.iv, p. 13, pp. 24-25.
- 5) 薄井担子 (1996) p. 26 の図を一部筆者が修正した図に, グリンダーの F1 と F2, FA の概念を筆者が書き入れた。
- 6) 地橋秀雄 (2006) p. 76。
- 7) 地橋秀雄 (2006) pp. 76-92. 図表 6, 7 は筆者の解釈をもとに作成した。
- 8) 図表はコージープスキーの理論を筆者の解釈をもとに作成した。
- 9) 地橋秀雄 (2006) p. 206。
- 10) このシートに書き入れた各モデルの概念の対応関係や, 概念と質問との対比関係は筆者の解釈による。例えば, 「さらに考え続けていること」という質問が「想」に相当するのか「反応」に相当するのかなどについては検討の余地がある。
- 11) 加藤雄士 (2016 b) のコージープスキーの一般意味論の概説を参照されたい。
- 12) 既述のとおり, そのフィルターを修正するための人材開発手法については別の機会に考察する。
- 13) クリステイーナ・ホール「言語プログラミング」セミナー (2010年 9月27日~10月2日, 東京) において紹介された。この質問自体の考察は別稿で行う。

(参 考 文 献)

- ALFRED KORZYBSKI (1933) 『SCIENCE AND SANITY AN INTRODUCTION TO NON-ARISTOTELIAN SYSTEMS AND GENERAL SEMANTICS』 INSTITUTE OF GENERAL SEMANTICS.
- 薄井担子 (1996) 『改訂版 看護学原論講義』現代社。
- 加藤雄士 (2016 a) 「認識論のレビューに関する一考察(1) 一人材開発の手法の理解に役立てるために一」『産研論集』第43号。
- 加藤雄士 (2016 b) 「認識論のレビューに関する一考察 (2) 一人材開発の手法の理解に役立てるために一」『ビジネス&アカウンティングレビュー』第18号。
- 加藤雄士 (2017) 「TEA を活用したアクティブラーニングに関する一考察 (1)一人材開発の講義における TEA の活用事例一」『ビジネス&アカウンティングレビュー』第19号。
- 加藤雄士 (2018) 「認識論のレビューに関する一考察 (3) 一人材開発の手法の理解に役立てるために一」『産研論集』第45号。
- Christina Hall (2007) 『Art of Training Manual』(邦題『芸術としてのトレーニング』マニュアル) The NLP Connection.
- クリステイーナ・ホール (2008) 『クリステイーナ・ホール博士の言葉を変えると, 人生が変わる—NLP の言葉の使い方』(株)ヴォイス。
- John Grinder & Carmen Bostic St Clair (2001), *Whispering in the Wind*, J & C Enterprises.
- 地橋秀雄 (2006) 『ブッダの瞑想法 ヴィパッサナー瞑想の理論と実践』(株)春秋社。